

CATL

(寧徳時代新能源科技)

詳細投資家向け分析レポート

業績推移 / 商品ラインナップ / 最新技術 / 株価動向

2026年4月 作成

時価総額	世界シェア	純利益 (2025年)	株価 (深圳)
約 44 兆円	39.2%	722 億元	約¥425

第1章 企業概要と成長の軌跡

□ CATL とは

正式名称：寧徳時代新能源科技股份有限公司 (Contemporary Amperex Technology Co., Limited) 設立：2011年 (福建省寧徳市) CEO および会長：曾毓群 (ロビン・ゾン) 上場：深圳証券取引所 (300750.SZ)、2025年5月 香港証券取引所 (3750.HK) に副次上場 事業：リチウムイオン電池 (EV 用動力電池・定置型蓄電システム) の研究・開発・製造・販売 R&D 拠点：中国国内 6 拠点 + ドイツ・米国・日本等の海外拠点 R&D 人員：2 万名超 特許・出願数：43,354 件 (国内 25,439 件、海外 17,915 件) (2024 年末時点)

CATL は 2011 年の創業からわずか 13 年で世界最大の EV 電池メーカーへと成長した。SNE Research 調査によれば、2017 年から 2024 年まで 8 年連続で動力電池使用量世界首位を維持し、2024 年の世界市場シェアは 37.9% (第 2 位 BYD に対し 20.7 ポイント差)、2025 年には 39.2%へと拡大した。

2025 年 5 月には香港証券取引所に副次上場し、約 46 億ドル (約 6,900 億円) の資金を調達。これは 2025 年の世界最大 IPO 案件となった。HK 株価は公開価格 HK\$263 から上昇し、HK\$701 を記録するなど、グローバル投資家からの強い支持を得ている。

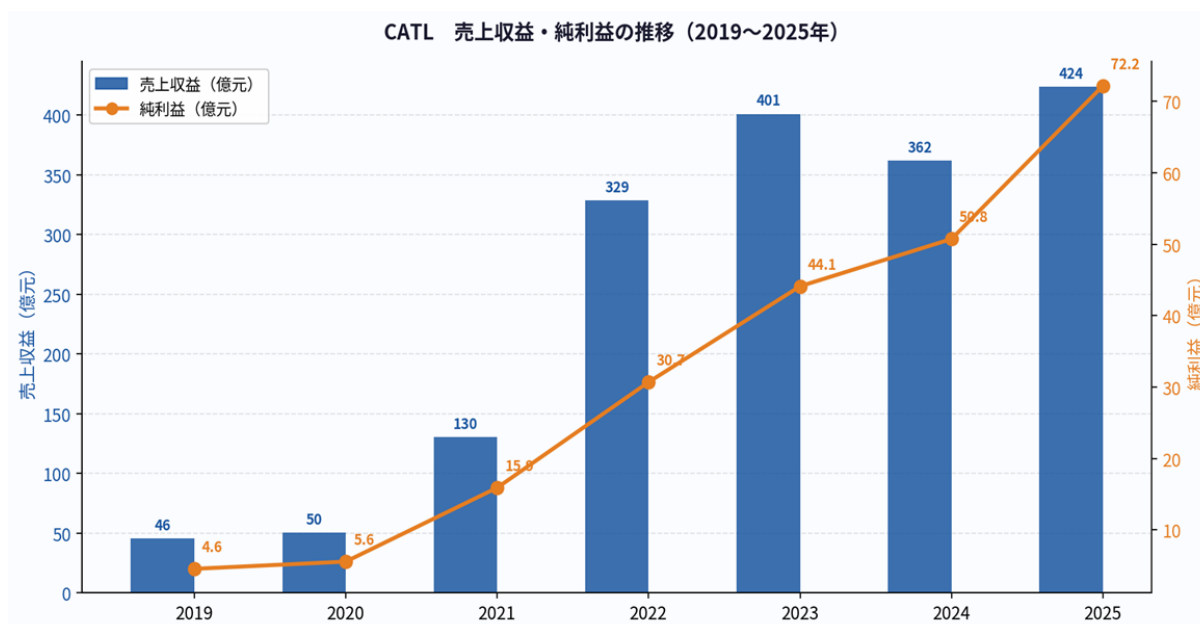
年	主要イベント
2011年	寧徳市で創業。ATL (香港) から独立分社
2013年	BMW の中国電気自動車向け電池サプライヤーに選定
2017年	世界最大の動力電池メーカーに就任。売上高 260 億元超
2018年	深圳証券取引所に IPO (公開価格 23.7 元)
2019年	VW ・ Tesla ・ Mercedes ・ Toyota 等との戦略的提携を相次ぎ締結
2021年	売上高 1,303 億元。株価 688 元を記録 (時価総額一時 1.6 兆元超)
2022年	売上高 3,286 億元 (前年比 152%増)。欧州工場建設本格化
2023年	世界初の量産型ナトリウムイオン電池 (Naxtra) 発表
2024年	売上高 3,620 億元。純利益 508 億元 (前年比+15%)。世界 43,354 件特許保有
2025年	香港上場 (\$4.6B 調達)。売上高 4,237 億元、純利益 722 億元 (+42%)
2026年4月	Super Tech Day: 第3世代 Shenxing ・ Kirin、固体電池路線図発表

第2章 業績推移と財務分析

2-1 売上収益・純利益の推移

CATL の売上収益は 2019 年の 456 億元から 2025 年の 4,237 億元へ、6 年間で約 9.3 倍に拡大した。2022～2023 年に急成長の後、2024 年はリチウム炭酸塩等の原材料価格下落に伴う製品価格の引き下げが影響し売上高が前年比 9.7%減 (3,620 億元) となった。しかし販売量は大幅増加し、コスト管理の徹底により純利益は 508 億元 (+15.0%) と増益を達成した。2025 年は売上・利益ともに過去最高を更新、純利益 722 億元 (+42.3%) と驚異的な成長を遂げた。

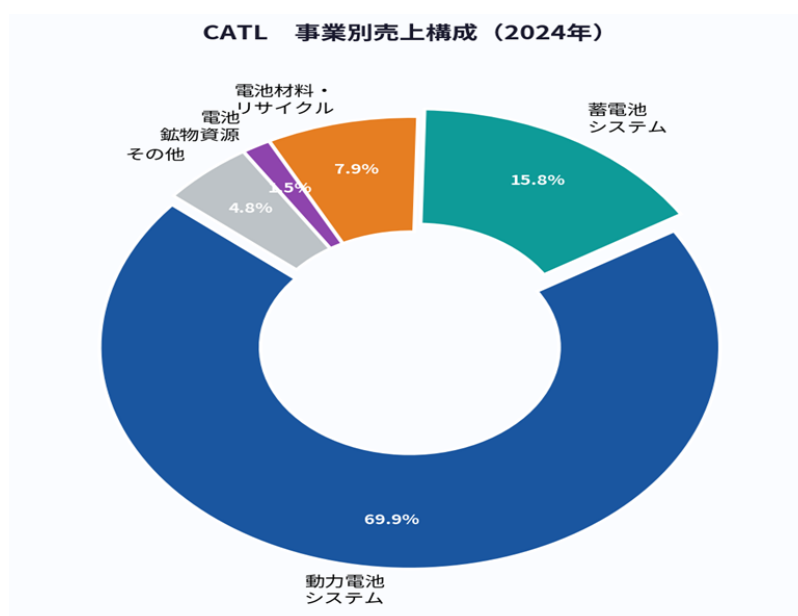
指標	2022年	2023年	2024年	2025年	前年比 (2025)
売上収益 (億元)	3,286	4,009	3,620	4,237	+17.0%
純利益 (億元)	307	441	508	722	+42.3%
粗利益率 (%)	17.7%	21.8%	23.0%	27.6% (Q1-3)	改善継続
R&D 投資 (億元)	155	184	186	200+	+8%超
EV 電池出荷 (GWh)	202	321	381	446	+17%
蓄電池出荷 (GWh)	42	70	93	130	+40%



【図1】CATL 売上収益・純利益推移 (2019~2025年)

2-2 事業別売上構成

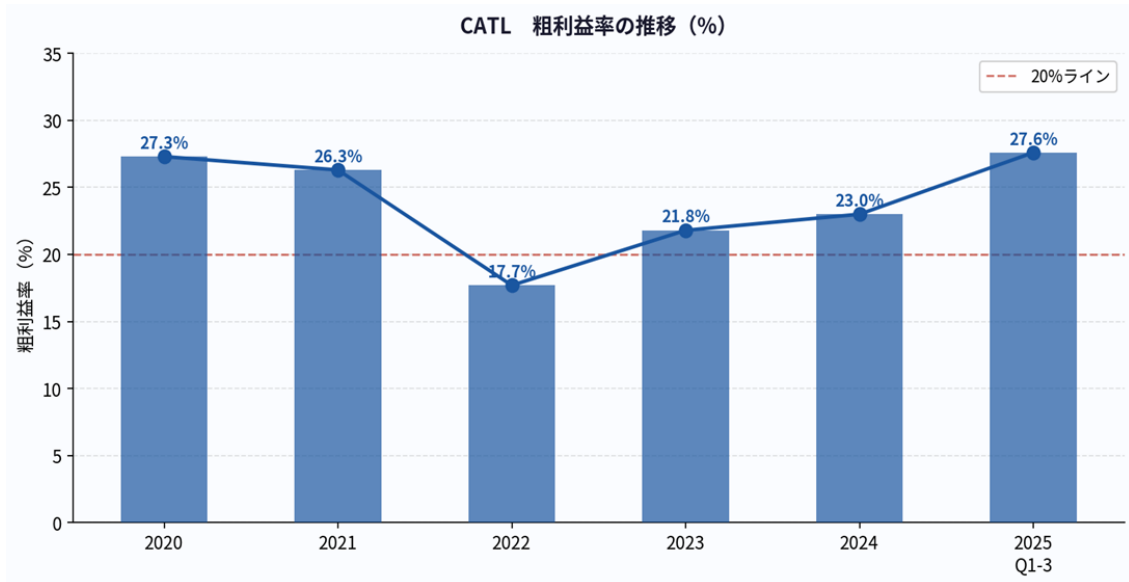
CATLの収益の約70%はEV向け動力電池システムが占めるが、蓄電システム(BESS)が急速に存在感を高めている。2024年の蓄電システム収益は573億円で全体の15.8%(2022年は13%)に成長し、粗利益率も動力電池(23.9%)を上回る26.8%を達成。ホルムズ海峡封鎖危機以降、世界各地でのグリッド用蓄電需要が急拡大しており、この部門が2026~2028年の成長エンジンになると目されている。



【図2】CATL 事業別売上構成 (2024年)

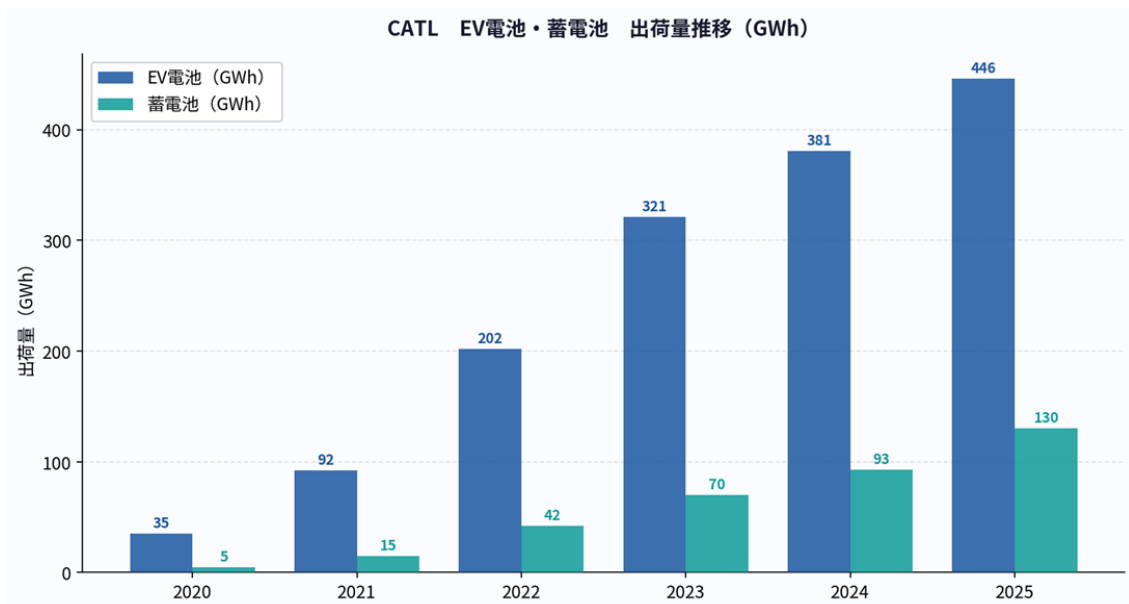
2-3 粗利益率の推移

CATLの粗利益率は2022年にリチウム価格高騰で17.7%まで低下したが、その後は技術革新・コスト削減・工場稼働率改善により順調に回復。2025年のQ1~Q3累計では27.6%まで改善した。2026年Q1はさらに加速し、売上高1,291億元（前年同期比52.5%増）、純利益は同48.5%増と記録的なペースで成長している。



【図3】CATL 粗利益率推移 (%)

2-4 電池出荷量の推移



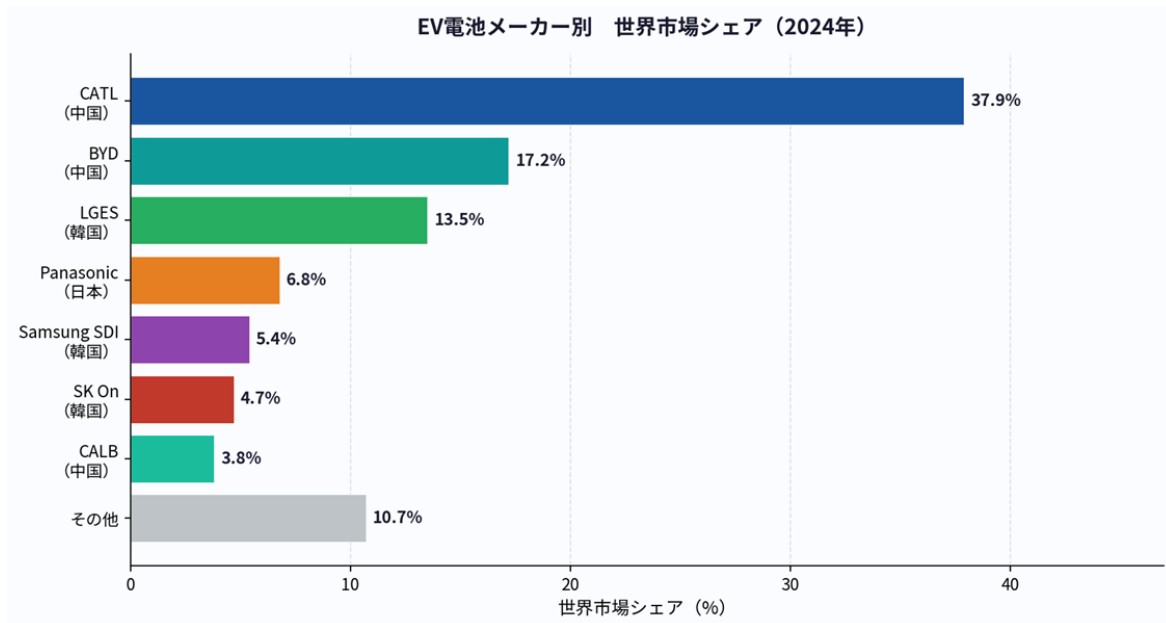
【図4】CATL EV電池・蓄電池 出荷量推移 (GWh)

動力電池の出荷量は 2020 年の 35GWh から 2025 年の 446GWh へと約 13 倍の拡大。蓄電池は同期間に 5GWh から 130GWh へと 26 倍成長した。2024 年の EV 電池出荷前年比増加率は 47%、蓄電池は 34%と、両セグメントで力強い拡大が続いている。CATL は 2024 年に中国国内の設備稼働率を 76%超（2024 年前半は 65%）まで引き上げ、製造コストの大幅削減を実現した。

第 3 章 世界市場での地位

3-1 EV 電池 世界市場シェア

CATL は 2017 年から 9 年連続で世界 EV 電池使用量首位を維持している。2024 年の世界市場シェアは 37.9%で、BYD の 17.2%に対し 20 ポイント超の差を維持。2025 年にはシェアがさらに拡大し 39.2%に達した。特に注目すべきは、蓄電池（BESS）分野での躍進であり、グリッド規模の蓄電市場においても CATL が世界首位を走る。



【図 5】 EV 電池メーカー別 世界市場シェア（2024 年）

3-2 主要顧客・パートナー

CATL のサプライチェーンは 150 カ国・176 ブランド・529 車種に及ぶ。主要顧客には以下の世界トップ自動車メーカーが名を連ねる。

顧客・パートナー	関係性・主な供給内容	地域
BMW / Mercedes-Benz	EV 電池を長期供給。ドイツ工場からローカル供給	欧州
Volkswagen Group	複数モデルへ電池供給。協働開発体制	欧州・中国
Tesla	LFP ブレードセル供給 (Model 3/Y)	世界
Stellantis (PSA 傘下)	ハンガリー工場 (CATL×Stellantis JV) で共同生産	欧州
Toyota / Honda	日系向け次世代電池開発・供給協力	アジア
NIO / Xiaomi / BYD 競合含む	中国主要 EV 向け動力電池、電池交換サービス	中国
AI/データセンター事業者	GPU 向け高密度蓄電・UPS 用途	世界

第4章 製品ラインナップと技術プラットフォーム

4-1 EV 向け動力電池システム

CATL の EV 電池ポートフォリオは、エネルギー密度・充電速度・安全性・耐温度性の各軸でカバーすることで、軽自動車から高級車、商用車まで幅広い市場ニーズに対応する。

製品名	化学系	主な特徴	ターゲット
Shenxing (神行) 第3世代	LFP	10C 充電・6分27秒で10%→98%充電。内部抵抗 0.25mΩ (業界最低)。-30℃でも9分充電。	主流セダン・BEV
Kirin (麒麟) 第3世代	NMC 三元高ニッケル	エネルギー密度 280Wh/kg、航続 1,000km。パック重量 625kg と軽量。10C 超高速充電対応。	プレミアム・高級 BEV
Kirin 凝縮態電池	凝縮態電解質+超高ニッケル+Si系負極	エネルギー密度 350Wh/kg・760Wh/L。航続 1,500km 対応。もとは電動航空機向け技術。	最高級 BEV・eVTOL
Xiaoyao (逍遥) 第2世代	LFP+NMC 複合	純電走行 600km+4C 超急速充電搭載の PHEV/REV 向け。	EREV・PHEV
Freevoy (弗迪) デュアル電力	Na-ion+LFP 複合	2種の化学系を電池レベルで融合。低温性能と長距離航続を両立。	多様な用途
Naxtra (ナクストラ)	ナトリウムイオン (Na-ion)	エネルギー密度 175Wh/kg (Na-ion 世界最高)。航続 500km・1万サイクル超。リチウム不使用。価格 LFP 比 30%減。2026年 Q4 量産開始予定。	低コスト EV・蓄電
M3P 電池	M3P 正極 (リン酸塩系)	LFP と NMC の中間性能。高コスパ・高安全性。	中級 BEV
凝縮態固体電池 (開発中)	半固体/固体電解質	固体電池量産の中間ステップ。2027~2028年 量産目標。	将来プレミアム

4-2 定置型蓄電池システム (BESS)

エネルギー安全保障の再定義が進む中、BESS は最も急成長する CATL の事業部門だ。世界各国の政府・電力会社がグリッド安定化のため大規模蓄電投資を急拡大しており、CATL の TENER システムは 5 年間ゼロ劣化保証という業界初の製品として高い評価を受けている。

- **TENER 蓄電システム** : 5 年間ゼロ容量劣化保証。単一コンテナ 6.25MWh 搭載。業界最大密度の蓄電コンテナ。
- **Choco-Swap (チョコレートスワップ)** : 乗用車向け電池交換システム。800V アーキテクチャ対応。2026 年末までに 4,000 基の超充電・電池交換複合ステーション建設計画。
- **QIJI (奇跡) 重トラ用スワップ** : 大型トラック・長距離輸送向け電池交換ステーション。運輸コストの大幅削減を実現。
- **データセンター向け蓄電** : AI コンピューティング拡大で急増する高密度 UPS・バックアップ電源需要を取り込む新市場。

4-3 川上・インフラ事業

- **Times Resources Group** : 2026 年新設の資源投資ビークル (300 億元規模)。リチウム・コバルト・ニッケル等の重要鉱物の世界的確保を推進。
- **電池リサイクル事業** : 使用済み電池から重要金属を回収・再利用するサーキュラーエコノミー事業。
- **グリーン水素** : LONGi との協業でグリーン水素プロジェクト参加。エネルギー転換エコシステムへ。

第 5 章 最新技術の進捗と技術ロードマップ

5-1 2026 年 4 月「Super Tech Day」の全貌

2026 年 4 月 21 日、CATL は北京で「Super Tech Day 2026」を開催し、業界を驚かせる 5 製品と充電・電池交換インフラ計画を一気に発表した。会長の曾毓群は「年間 200 億元超の R&D 投資はコストではなく、業界サイクルを乗り越える核心能力」と強調した。

□ Super Tech Day 2026 主要発表まとめ

◎ 第 3 世代 Shenxing 超高速充電電池 : 6 分 27 秒で 10%→98% 充電 (世界新記録) ◎ 第 3 世代 Kirin 電池 : 280Wh/kg、航続 1,000km、超急速充電対応 ◎ Kirin 凝縮態電池 : 350Wh/kg・航続 1,500km (eVTOL 技術の乗用車転用) ◎ 第 2 世代 Xiaoyao 超航続ハイブリッド電池 : 純電走行 600km、全モデル超急速充電標準化 ◎ Naxtra 第 2 世代ナトリウムイオン電池 : 2026 年 Q4 量産開始確定 ◎ 統合型超充電・電池交換ネットワーク : 2026 年末までに 4,000 基建設計画

5-2 充電速度の技術的優位

CATL の充電技術の核心は「温度管理」にある。超急速充電の真の課題は「充電速度」ではなく「温度上昇」だと同社 CTO の高煥は指摘する。第 3 世代 Shenxing は平均内部抵抗 0.25mΩ（業界比 50%低減）を達成し、セル肩部冷却による冷却効率 20%以上の向上を組み合わせることで、1,000 サイクル後も 90%以上の容量維持と超急速充電の両立を実現した。

充電指標	CATL Shenxing 第 3 世代	BYD ブレード電池 2.0	差
10%→98%充電時間	6分27秒	9分	-33% (CATL 優位)
10%→35%充電時間	1分	非公開	業界最速
10%→80%充電時間	3分44秒	5分 (推定)	CATL 優位
-30℃環境での充電	20%→98%が9分	20%→97%が12分	-25% (CATL 優位)
内部抵抗	0.25mΩ (世界最低)	非公開	CATL 圧倒的優位
1,000 サイクル後容量	90%以上維持	非公開	CATL 優位

5-3 ナトリウムイオン電池 (Na-ion) の商業化

CATL は 2026 年 Q4 に世界初の量産型 Na-ion 電池 (Naxtra) を本格投入する。最高科学者の吳凱 (中国工程院院士) は 4 つの量産課題 (極限水分管理・ハードカーボン発ガス・アルミ箔密着・自己生成アノードの量産) をすべて解決したと発表。ナトリウムイオン電池の市場規模は 2030 年に蓄電向けで 580GWh・EV 向けで 410GWh 超に達すると予測されており、これはリチウム電池市場全体の 30~40%を代替する可能性がある。リチウム不要で価格が LFP 比 30%減というコスト優位性は、100 万円以下の低価格 EV や新興国市場向けに革命的な影響力を持つ。

5-4 固体電池・半固体電池のロードマップ

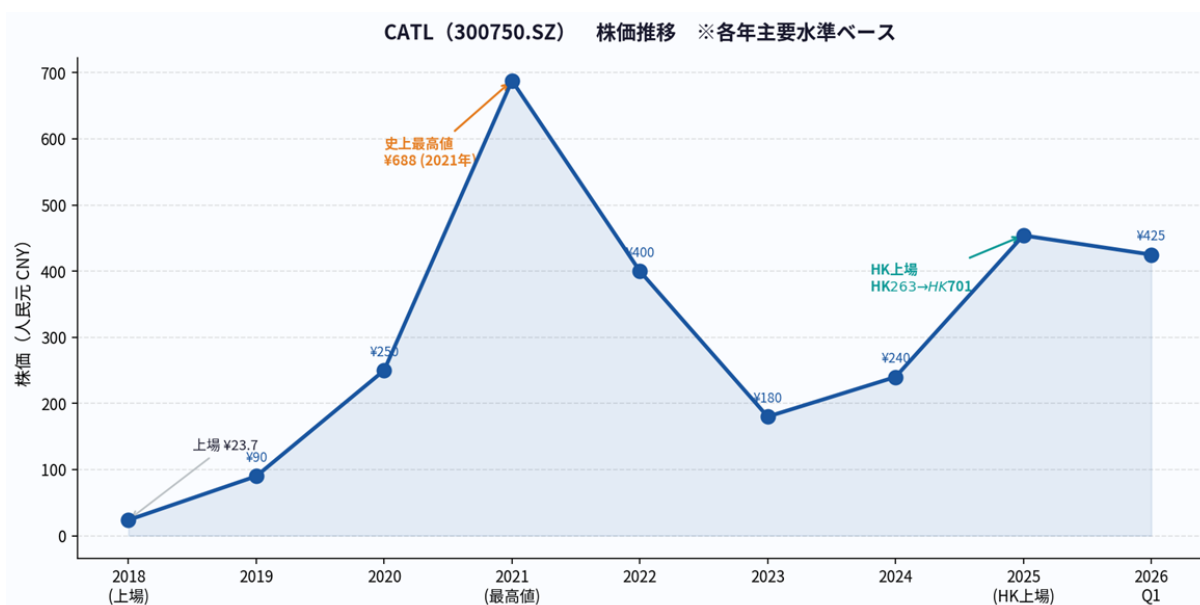
凝縮態電池 (350Wh/kg) は半固体電解質を採用した量産前半固体電池であり、もともと 2023 年に電動航空機 (eVTOL) 向けとして開発した技術を乗用車向けに転用したものだ。完全固体電池は 2027~2028 年の量産を目標としており、BYD の「2027 年 1,000km 固体電池」宣言に対して CATL は異なるアプローチで対抗する。エネルギー密度・充電速度・安全性の三角形を同時に解く全方位技術戦略を展開している。

□ CATL の技術ロードマップ (2025~2030 年)

2025 年末：第 2 世代 Shenxing (12C) 量産・Naxtra Na-ion 電池商業ローンチ 2026 年 Q4：第 3 世代 Shenxing (15C) 量産・Naxtra 大規模量産 2026 年末：4,000 基 超充電・電池交換複合ステーション建設完了 2027 年～：凝縮態 (半固体) 電池を乗用車向け量産。固体電池開発完成 2028 年～：全固体電池量産 (目標)。10 万か所超の充電網 (他社共同) 整備 2030 年：ナトリウムイオン電池市場規模 990GWh 以上 (蓄電・EV 合計)

第6章 株価動向と市場評価

6-1 深圳 A 株 (300750.SZ) の株価推移



【図6】CATL 株価推移 (300750.SZ) ※年次主要水準

CATL の深圳 A 株は 2018 年 6 月の上場時（公開価格 23.7 元）から 2021 年末に 688 元の史上最高値を記録、時価総額は一時 1.6 兆元（約 36 兆円）超に達した。その後、世界的な金利上昇・中国景気不安・EV 市場の価格競争激化を背景に 2023 年には 180 元台まで急落。しかし 2024～2025 年の業績回復と技術革新を受けて持ち直し、2025 年 11 月には 453 元台を付けた。2026 年 4 月時点では約 425 元近辺で推移。

期間	株価水準	主な要因
2018 年（上場時）	¥23.7	IPO 公開価格
2020 年末	¥250	EV 需要急拡大・政府補助継続
2021 年末（高値）	¥688	EV 投資ブーム・業績急拡大
2022 年末	¥400	金利上昇・中国ゼロコロナ政策の影響
2023 年末	¥180	リチウム価格暴落・EV 価格競争激化・競合台頭
2024 年末	¥240	業績回復・蓄電市場拡大
2025 年 11 月（高値）	¥453	HK 上場・純利益+42%・需要回復
2026 年 Q1	約¥425	ホルムズ地政学・大型 HK 増資の需給懸念

6-2 香港 H 株（3750.HK）上場の意義

2025年5月、CATLはHK\$263/株（4.6億ドル調達）で香港証券取引所に副次上場した。これは2025年の世界最大IPO案件であり、海外機関投資家・年金ファンドが中国本土A株（外国人投資制限あり）を回避しながらCATLに投資できる手段として歴史的な意義を持つ。HK株は公開価格HK\$263から急伸し、HK\$701を付けた後、2026年4月時点でHK\$700前後で推移。2026年4月末には約50億ドル規模の追加HK株プレミアムが実施されている。

6-3 バリュエーション指標

指標	数値（2026年4月時点）	注記
時価総額（A株ベース）	約2.14兆元（約44兆円）	A株のみ、HK株含まず
時価総額（HK株含む）	約44兆円相当（\$2,700~2,970億）	世界50~55位圏内
PER（TTM）	約57倍	2025年純利益ベース
PER（2024年末時点）	22.5倍	当時の純利益ベース
売上高成長率（2025年）	+17.0%	売上高4,237億元
純利益成長率（2025年）	+42.3%	純利益722億元
純利益成長率（2026年Q1）	+48.5%	Q1純利益が急加速
配当性向（2024年）	約39%	年次配当+特別配当の合計
キャッシュ残高（2024年末）	3,000億元超	財務健全性の高さを示す
信用格付け	A-（S&P・Fitch）、A3（Moody's）	投資適格・高格付け

第7章 投資家向け評価と戦略的視点

7-1 強気材料 (ブル)

- **圧倒的な技術優位と特許防壁**：43,354 件の特許・出願と 2 万名超の R&D 人員。業界最速充電 (6 分)・最高密度 (350Wh/kg 量産) を同時達成。技術的な堀は深い。
- **世界市場シェアの拡大継続**：2024 年 37.9%→2025 年 39.2%とシェアが拡大。BYD を 20 ポイント以上リード。中国国内では 47%超のシェア。
- **蓄電 (BESS) ビジネスの急拡大**：ホルムズ危機後の再エネ普及加速で最大受益者。2024 年の粗利益率 26.8%と高収益。2026~2028 年の主要成長エンジン。
- **ナトリウムイオン電池の量産化**：2026 年 Q4 量産開始でリチウム不要の新市場 (990GWh 超) を先行取り込み。コスト 30%削減で新興国・低価格 EV 市場に革命。
- **香港上場によるグローバル資金調達力**：HK 株上場で欧米機関投資家・インデックスファンドへのアクセスが拡大。資本コストが低下し、グローバル投資余力が増大。
- **強固な財務基盤**：キャッシュ 3,000 億元超・信用格付け A- (投資適格高格付け)。高 R&D 投資を継続しながら配当性向約 39% (2024 年実績) を維持できる稀有なバランス。なお 2025 年は年次配当 20%+特別配当 30%の計 50%配当を発表。
- **地政学的追い風**：ホルムズ危機でエネルギー安全保障の重要性が再認識。各国のクリーンエネルギー投資が急拡大し、CATL 製品への需要が加速。

7-2 リスク要因 (ベア)

- **米国・EU の追加関税リスク**：EV 電池に対する 100% (米国)・追加関税 (EU) により輸出市場が制限。ただし CATL は現地生産 (欧州工場) で一部回避。
- **国内価格競争の激化**：BYD・CALB・中創新航等の競合が価格を引き下げ。粗利益率への下押し圧力が継続。
- **リチウム炭酸塩価格の変動**：原材料価格の急変動が業績に大きく影響。2023~2024 年の急落は売上減少要因となった。
- **中国マクロ経済リスク**：不動産危機・内需低迷・デフレ圧力が中国国内 EV 需要に悪影響を与える可能性。
- **地政学・制裁リスク**：米中対立の深化・半導体等の輸出規制の拡大が CATL のグローバル事業に影響を与えるリスク。
- **高バリュエーション (PER57 倍)**：高成長を前提とした株価水準。成長鈍化や市場期待下回りの場合の下落リスクあり。

7-3 投資家へのアクションガイド

投資家タイプ	推奨アプローチ	主な注目点
長期成長投資	HK株（3750.HK）で段階的購入。A株より外国人アクセスが容易。	蓄電・Na-ion電池・固体電池の長期成長
中期バリュー投資	PERが30倍台まで調整した場面での打診買い検討。	2026年業績と配当の持続性
テーマ投資（ESG）	クリーンエネルギー×エネルギー安全保障のダブルテーマ銘柄として位置付け。	各国クリーンエネルギー政策の動向
リスク分散投資	CATL単独ではなく、サプライチェーン素材株（Li・Ni・希土類）と組み合わせ。	素材価格と川上バリューチェーン
機関投資家	HK株プレースメント（2026年4月）は一定のディスカウントで取得機会。	長期目線でのコア保有

□ CATL 投資判断のコア・サマリー

【Bull Case】ナトリウムイオン電池の量産成功・蓄電市場の爆発的拡大・欧米市場でのシェア回復が実現すれば、2027～2028年に純利益1,000億元超、株価600元超も視野。【Base Case】2026～2027年にかけて純利益年率20～30%増のペースで成長継続。株価は400～500元レンジで安定推移。【Bear Case】米中関係悪化・EV普及鈍化・価格競争深刻化が重なった場合、純利益の伸びが鈍化し株価200～300元台への下落リスク。投資家は中長期の構造的成長テーマに乗りながら、地政学リスクをヘッジするポートフォリオ構成を検討すべきである。

本レポートは SMM・CnEVPost・Benchmark Minerals・BloombergNEF・CATL 年次報告書・各種報道を基に作成。情報提供目的のみ。投資判断はご自身の責任で。